

令和4年度第1回湘南大庭の未来を考える会議議事録

日時 2022年（令和4年）6月24日（金）午後3時45分から5時40分

場所 湘南大庭市民センター 第1談話室

参加者 佐野会長他19人（詳細は出欠表のとおり）

1 開会

會澤課長補佐による司会で開会し、冒頭、人事異動により新しく委員となった矢内委員及び東山委員から挨拶をいただいた。その後、佐野会長が議長として会議を進行した。

2 湘南ライフタウン内のまちあるきについて

本会議の前、午後2時から3時30分頃までマイクロバスを使った湘南ライフタウン内のまちあるきを実施した。そのまちあるきの振り返りとして、パワーポイントを投影しながら千原主査から説明した。以下主な意見。

道上委員：石川一の坪公園でスポトレを実施している“ぐるんとびー”という団体は、地域のイベントとしてキャンドルナイトを実施したり、公園を活用している。

佐野会長：本会議は知名度が低い。地域の活動を取り上げて住民に見てもらえるとよい。

桃井委員：まちあるきでは、湘南ライフタウンの住民でも知らないことがあった。自分たちのまちを知り、自然に外部に発信していくことが理想。

中村委員：湘南大庭会という若年層の団体があり、100人ぐらいが所属し活動している。また、「湘南ライフタウン」という名称がバス停にしか使われておらず、目にする機会、耳にする機会が少ない。辻堂が人気のまちになっている中、もっと「湘南ライフタウン」をプロモーションしたほうがよい。また、インフラも住民も年を重ねているため、神奈川県内の県営住宅での事例のように、学生を住まわせるような取組ができないか。

事務局：今回のまちあるきでは行かなかったが、ライフタウン内にある遠藤公園では、グラウンドやテニスコートが併設されているなど、地域の運動施設が充実している。また、親水公園や、地区の中心を流れる小糸川、二番構公園の噴水など、まちと水の関連性というのも特徴がある。裏門公園は、アズビルと協定を結んで自然環境を保全していて、市の中でも特徴のある公園の1つ。今回のまちあるきで見た場所も含め、湘南大庭地域活性化協議会（以下「活性化協議会」）のほうで、地域の特徴をどう活かして、どういうまちを目指したいというような将来像について考えていただきたい。

3 本会議が策定を目指す計画等の形について

資料1（P7～8）を基に、パワーポイントを投影しながら大矢主任から説明した。以下主な意見。

（意見等）

中村委員：活性化協議会に本会議の事務局が参加したことがなく、本会議と活性化協議会の間には距離を感じる。もっとすり合わせをして、連携しながら取り組んだほうがよい。

桃井委員：計画等の名称について、先ほども話をしたが「湘南大庭」にするのか「湘南ライフタウン」にするのかもよく考えなければならない。若い人は「湘南大庭」のほうをよく目にすると思うが、上の世代は「湘南ライフタウン」のほうになじみがある。

事務局：計画の方向性も含め、名称を「湘南大庭」とするか「湘南ライフタウン」とするかは、活性化協議会のほうで議論していただきたい。

桃井委員：また、藤沢市では、海に近いほうが居住地としてブランドが高い。海岸から少し北にあるといえど、地区名に「湘南」と入っていることを活かしたまちづくりができたらいと思う。

道上委員：辻堂方面からトンネルを通過してライフタウンに出た際、魅力的な光景が広がるなど、トンネルがあることをまちの魅力にできないか。

中村委員：遠藤地区のSFC近くの一帯を市街化区域とする計画（健康と文化の森地区）とも連携したまちづくりをするべきではないか。

神木委員：広報ふじさわで、湘南ライフタウンの特集記事を組んでもらいたいという話が活性化協議会で出た。活性化協議会もそうだが、本会議等の取組を告知することが必要。

佐野会長：広報・周知の方法として、SNSを活用できたほうがよい。

道上委員：活性化協議会でもSNSで発信するという手法の案は出た。現在、地域の中のちょっとしたイベントや出来事が共有されていない。湘南大庭にはポータルサイトがあるが、おしゃれでないので若者は見ていない。先進事例の中でもうまくいっているものは、HP等の発信の仕方やデザインが魅力的になっている。若者も含め、おしゃれなもの、「ばえる」ものには注目も集まるし効果的だと思う。そういったものにお金を掛けることも1つ。まちの良い所を正しく伝えることが重要。

佐野会長：先進事例の一つである若葉台団地では、口コミで活動が広がっていった。地域発で活動することが大切。若者を使うのはなかなか難しい側面もある。地元の頑張りが若者に伝わり、それが口コミで広がった、というのが流れ。最初から若者と一緒に、というのは難しい。

道上委員：まちの発信は長期的なものになるため、活動や広報は誰が担うのか。NPO等のまちづくりを担う団体をつくるのか。

中村委員：湘南スタイルという本で、藤沢市内の住みたい場所の一つとして湘南大庭が選ばれていた。

道上委員：住宅情報誌に掲載してもらえれば、良いPRになるのではないか。

佐野会長：住宅情報誌への掲載は、基本的にこちらから情報を持ち込んで掲載してもらう必要がある。

森谷委員：PRの手法について、今の10～20代の若い人は、HPやツイッターを見ない。若い人を呼び込むという観点では、SNSを活用することが必要。具体的には、インスタグラムやユーチューブが主流。

中村委員：地方ではユーチューブでまちを紹介している例もある。

實方副会長：今回のまちあるきでは、ライフタウン内の場所と活性化協議会の委員の暮らしとの関係性が分かり、歴史や自然がこの湘南大庭の個性であると分かってよかった。先ほどの話にあった“ぐるんとびー”についても、地域の貴重な財産であると思う。計画等の目次案はこういうものでもいいと思うが、策定する計画等をここ独自のものとするためには、先ほ

どからこの場で他の委員がお話しいただいたような内容が重要。物理的な空間の話だけでなく、ライフタウンでできていること、生活とのつながりも含めた魅力と課題を盛り込めたらよい。将来像のアイデアなど、活性化協議会の中での話にもたくさんのヒントがある。そういう血の通った内容が入れば、おのずと計画等の基本理念や将来像、タイトルも決まってくるはず。

まちあるきで公園を何箇所か見たが、公園ごとに役割等の違いがあり、個性があって、住民にとって選択肢が豊かであると感じた。そういう面から、ライフタウンの中で、ライフステージに応じた住まいの選択もできるのではないか。

先ほどシティプロモーションの話も出たが、議論されてきた内容をうまく盛り込み、計画等の内容ができれば、それがライフタウンのシティプロモーションにつながっていくと思う。

4 地域住民を対象としたアンケートについて

資料2を基に、大矢主任から説明した。以下主な意見。(項目のみ)

- P1にある調査の対象者について、下限を18歳としているが、もっと若い人の意見をもらったほうがよいのではないか。
 - 17歳以下へのアンケートについては、必要であれば地区内の小中学校の児童生徒にアンケートを取るということもできるため、今回は対象としない考えである。
- P1にある調査の対象者について、年齢の上限を74歳としているが基準がわからない。確かに区切り方は難しいが、今の時代、80代でも元気な人は多い。
 - 上限については、市で実施した他のアンケートで高齢者を対象としたものがあつたことと、アンケートの回答率等を考慮して、今回は年齢の上限を前期高齢者の74歳としている。この年齢層に設定した理由を説明できれば問題ないと判断する。
- 設問16と17にある地域活動について、現在地区内の子ども会はほとんど組織されていないため、「地域活動(自治会、その他任意団体)」等と修正したほうがよい。
- 設問16について、自治会とその他任意団体でそれぞれ参加の頻度を聞くつくりとしたほうがよい。また、頻度についても、「週3回以上」や「週2回程度」と、比較的頻繁な選択肢が多いので、「数か月に1回」や「年1回」といった選択肢を加えたほうがよい。
- 設問19の3番について、「大庭」ではなく「湘南大庭」としたほうがよい。
- アンケートの実施について、どのように周知するのか。
 - 地域回覧で事前に周知したいと考えている。
- アンケートの体裁について、このままでは堅い印象なので、特に1ページ目にはイラストをいれるなど、やわらかい印象を与えるつくりとしたほうが回答率はあがると思われる。

5 令和4年度のスケジュールについて

資料1(P9)を基に、千原主査から説明した。

(意見等なし)

6 意見交換

杉渕アドバイザー：今回のまちあるきで、通り過ぎるだけとなったが、親水公園の北側など、地区内には農地が残っている。食物の地産地消等、農業という視点を意識してもよいかもしれない。

中村委員：以前、地域活動の中でJAに話を聞く機会があったが、地区内の農家は若くても50代で、高齢化が進んでいるらしい。そういう農家とも意見交換できる場があるとよい。

7 その他

君塚委員：「2 湘南ライフタウン内のまちあるきについて」の中で、中村委員から話があった、県営住宅への大学生の入居事業について、私が担当していた。県営笹山団地で実施しており、横浜国立大学が授業の一環で笹山団地を扱っているという関係性が元々あったことも大きく、県営住宅の空き住戸の活用策ということで事業が実現した。この種の事業として、住戸だけ用意してもうまくいかず、学生が「楽しそう」と感じるような、また学生を孤立させないような仕組みづくりが重要。同様の事業は、県よりも住宅供給公社のほうが先に実施している。いかに大学と連携することも大事で、学生にだんだん入り込んでもらうような仕掛けをしたほうがよい。

神木委員：全国的に、若い世代がいない団地は多い。入居してもらう若い人に、地域活動に参加をさせている例もある。

君塚委員：大学との地理的な距離だと、笹山団地よりも湘南ライフタウンのほうが有利だが、その大学が慶応大学となると、学生が入居してもよいと思える設備を提供するというハードルが高いかもしれない。

佐野会長：学生に来てもらうための事業を考えると、まちづくりの目的から外れてしまうかもしれない。そのため、積極的に湘南ライフタウンの情報を発信し、向こうから魅力的に感じてもらえるようにアプローチしたほうがよい。

最後に、事務局から、次回日程については、会場確保も含め改めて連絡する旨説明があった。

8 閉会

以上